



# 布施だより

## 《スマートフォンやSNS等のトラブルから子どもを守るための取組について》

スマートフォンやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等の情報手段が急速に普及する中で、インターネット上のトラブルから生徒を守るため、家庭、学校、教育委員会と警察等による連携体制の強化・充実を図り、各家庭での携帯電話等の使用方法についての見直しに関わって、「長野上水内中学校申し合わせ」を先日お知らせいたしました。この件に関わって重ねて、注意喚起をお願いいたします。

先日の新聞で次のような事案が報道されていました。

### 【児童ポルノ製造疑いなどで伊那の中3ら書類送検】

伊那署と県警少年課は14日、児童買春・ポルノ禁止法違反(児童ポルノ製造、提供)の疑いで伊那市の中学3年男子(15)、同法違反(児童ポルノ提供)の疑いで同市の中学2年男子(14)の書類をともに地検伊那支部に送った。中3男子の送検容疑は、昨年4月下旬、友人の南信地方の女子中学生=当時(14)が18歳未満と知りながら、携帯電話で胸部の画像を撮影、送信させ、同8月上旬に無料通信アプリLINEで南信の男子中学生に送信した疑い。中2男子の送検容疑は同11月下旬、女子中学生が18歳未満と知りながら、携帯電話に送られてきたこの画像をLINEで南信の別の男子中学生に送った疑い。同署が学校関係者から相談を受けて調べていた。

(1/15日付「信濃毎日新聞」)

平成26年の「改正法」により、児童ポルノ所持等についての罰則が新設されました。

◇児童ポルノを所持した者 ◇児童ポルノに係る電磁的記録を伝宣した者は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金を課す。

つまり、上記の事案にこの罰則が適用されることになります。

各ご家庭ではお子様と充分に話し合い、スマートフォン等の利用実態を把握して、インターネット上での危険性を正しく理解させる指導を重ねてお願いします。

◇参考:長野上水内中学校申し合わせ

### 【学校での取組】

- ① 日頃からSNSに関する指導を継続して行い、「犯罪者にならない 被害を受けない」ための注意喚起を行っていきます。具体的な方法としては、講演会等、学習の機会を設けたり、アンケート調査を行ったりしていきます。
- ② 事案(不適切画像送信等)を確認したら、保護者に連絡すると共に、警察に相談します。その上で、警察の助言を生かし、以後の対応を進めます。緊急性がある場合、保護者に相談する前に警察に相談する場合があります。
- ③ 保護者の方と共に、事実確認、画像等の保存・削除を行い、必要な指導を行います。
- ④ 事案が他校にまたがる場合は、学校間で連絡をとり合いながら対応します。  
また、内容によっては、警察に捜査を依頼します。

### 【家庭での取組】

- ① 現在のお子さんのSNSの利用状況を詳しく確認してください。また、以後も定期的に確認をしてください。(内容・相手・画像等 発信内容だけでなく、受信内容も確認願います)
- ② フィルタリングの設定、利用時間や利用場所など、ネット利用の約束を再確認してください。その上で、「使わない、使わせない」のも良い選択です。
- ③ 保護者の方も、SNSについて理解を深めてください。SNSの利便性の裏に潜む危険性やどのような犯罪につながるのか等を知ってください。

## 《 清新の気・理想の実現・澄心静慮 》

1月の各教室には新年の書き初めが掲示されています。1年生は「清新の気」、2年生は「理想の実現」、3年生は「澄心静慮」の力作です。既に各地区では「どんど焼き」が行われ、火にくべられた書き初めが夜空に昇っていったのでしょうか・・・。

生徒諸君の帰った放課後の教室は、翌日の活躍をじっと待つかのように実にきちんとしています。机と椅子はまっすぐに整然と並べられ、黒板はやはり翌日の学習の板書を待って、くっきりとスジが見えるように拭かれ磨かれています。その日の学級当番の生徒が一日の当番活動の終わりを教室の整頓に注いでくれ、学級や学年の先生方が、生徒諸君の帰った後の教室を見回りながら、翌日の追究に備えています。冬の冷え冷えとした教室には凜とした静謐感が漂っています。

そして職員室に戻ってくると、各学級通信や学年通信には、その日の生徒諸君の活躍が横溢しています。それぞれの学年の活躍に目を通しながら、この時期当然のごとく目を凝らしてしまうのが3年生諸君のそれらです。3学年の学級・学年通信に込められている受検生諸君の祈りにも似た「当たり前」の日常の中にこそ卒業と進路実現があるという言葉に接していると、知らず知らずの内にエールを送っている自身に気づかされます。



## 《新年度に向けて～「よりよい学校づくりのために」検討会議～》

年末、年始にかけて私たち教職員はこの1年間を振り返り、来る平成28年度の学校運営・教育課程編成に向けて話し合いを重ねています。生徒アンケート・保護者アンケート「より良い学校を目指し、連携と協力を生み出すために」の結果や教職員自身の振り返りをもとに、検討課題と検討内容を4つに絞り、  
①【西中学校グランドデザインの検討 ◇学校運営の3本柱「柱1～3」・指導の重点「重点1～3」の検討】  
②【年間計画検討 ◇登校日数205日（予定）での授業時数

確保のための諸行事、諸会合の見直し】 ③【基礎・基本の学力の確かな定着と「活用する力」の向上に向けて ◇学力向上に向けた学習相談・補充学習の設定（水曜日の午後の日課検討と学習相談の具体） ◇研究の重点、研究組織（授業改善、研究推進、学習評価研修推進）の検討】 ④【生徒会活動 51 年目に向けて ◇成就感、達成感の共有のための重点活動】現状や課題を探りつつ、新年度に向けて可能性を語る検討会になります。



2つの検討グループについて紹介いたします。

### ③【基礎・基本の学力の確かな定着と「活用する力」の向上に向けて】

今年も「凡事徹底 ～聴く・チャイムスタート・書く～を学習習慣作りの確立に据えて1年間、生徒とともに追究を重ねてきました。先生方の授業の振り返りには「三箇条（チャイムスタート・目と心で聴こう・自分の考えを書こう）の徹底など、学習に臨む規律が守られ、授業の雰囲気は向上してきていることが学力定着につながっています。」「西中の生徒は好奇心が旺盛で、知りたいと思う気持ちが多い生徒がたくさんいるので、その気持ちを大切にしながら、考える活動・説明する活動をさらに授業の追究姿勢に加えていこうと考えます。」「学習課題に対して、ひとりひとりの考える時間を充分にとることで、根拠をもって考える学習習慣を身に付けつつあります。思考力を高める授業改善への取り組みにつなげていきたいです。」といった成果が聞かれています。

新年度はこれらの成果の上に立って、言語活動を充実させた「書くこと・説明すること」「仲間との関わり合う時間と場」の設定を柱に授業改善を考えていきます。追究の場面で仲間同士が話し合い、根拠を出し合い、解決法を検討しあう学習場面を取り入れたりすることで、より確かな学力

につなげていこうと考えています。併せて家庭学習のあり方やテスト前の補習についても具体案を模索しています。家庭で予習や復習を行い、自分で家庭学習の計画を立て、学習に向き合える習慣作りを検討します。心身の健康については生活リズムを自律的に作り上げることが、学力や生きる力の根底に通じることも併せて自覚していきたいです。教科会、学年会を横断的に連携し、授業改善と家庭学習への取り組みを考えていきます。



#### ④【生徒会活動 51 年目に向けて ◇成就感、達成感の共有のための重点活動の検討】

日々の節度ある生活には生徒会活動が欠かせません。第 50 代から第 51 代生徒会に襷が引き継がれ、引き続き自主・自律的な活動を生徒会諸君が行ってくれています。そのお陰で地味だけれど、確かな成果が出ています。(例えば・・・集会時の入退場の整然とした姿勢、顔を挙げて聞く姿勢。毎朝、玄関や廊下を清掃してくれるボランティアスピリット、雪の降った朝には、早くから登校し汗をかきながら雪かきに精出してくれる部活動諸君・・・等々) さらに、「チャイムスタート・給食・清掃などの凡事徹底の活動に、「関わり合い・支え合い・信頼と団結」の視点を加えて、生徒たち自身が互いを理解し、尊重し合える活動と雰囲気に応援していこうと考えています。



組織マネジメントの「P (計画) D (実行) C (評価) A (改善)」サイクルを念頭に置きながらの検討会です今年度の成果と課題を出し合い、新年度 生徒との出会いに心ワクワクさせながらのひと時にもなってもいいのです。春の新年度スタート時には、学校グランドデザインに具体的教育活動を提案し、反映できるよう、教職員ひとりひとりがアイデアを出しながら取り組んでいます。

### 《 春待つ 息吹き 》

〈 吹奏楽部 〉

第 41 回長野県アンサンブルコンテスト長野地区大会

銀賞 フルート五重奏 サクソフォン四重奏

金管八重奏 B

銅賞 打楽器八重奏 金管八重奏 A



〈 合唱部 〉

第 17 回北信小中学校ボーカルアンサンブルフェスティバル

金賞 シノニシオトメ おんがく

〈女子バスケットボール部〉 第 40 回更埴地区中学校バスケットボール大会  
第 4 位



～ ～ ～ ～ ～

自由律俳句で名を成した尾崎放哉の ～ 咳をしても一人 ～ が、その自由気ままな生活ぶりからの孤高と孤独を詠んでいるのには言を待たないのですが、きっとそのアンチテーゼとして詠まれたであろう俵万智の ～ 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ ～ のおおらかさと人の陽差しに、軍配を上げたくなる大寒波襲来です。かじかんだ体や降る雪が会話のきっかけになるのは加藤楸邨の句からも感じ取られることです

～ 降る雪が父子に言をもたらしぬ ～

・・・・春遠からじです。